



「服のチカラ」プロジェクト始動!

7月11日(金)、「届けよう、服のチカラ」プロジェクトに向けた出張授業が行われました。GU 和歌山永穂店の方より、難民の子どもたちの現状や服のチカラについてお話いただきました。

紛争避難体験ワークでは「自分の町で突然戦争が起きたら?」という想定のもと、避難時に持ち出せるアイテム 7 つから優先順位を決めるワークを実施しました。グループで意見を出し合い、なぜその順番にしたのかを発表することで、自分の価値観や命に関わる選択について真剣に考える様子が見られました。また、服の役割や回収したことも服が誰に届くのかを知ること、難民のおかれている状況を自分ごととして捉え、必要とされる支援について理解を深めることができました。

児童生徒からは、「勉強になりました」「ユニクロや GU さんが難民キャンプに服を送っていることを初めて知りました」「周りの人に共有してみてもいいかなと思いました」「今後は積極的に参加していきたいと思いました」という声が聞かれました。こども服の回収活動について意欲を示す生徒が多く、「自分も誰かの力になれる」との気づきがあったようです。

この授業をきっかけに、学年全体でのこども服の回収プロジェクトを始動します。学校だけでなく地域とも連携した教育活動の展開を目指していきたいです。



プロジェクトの概要
はユニクロさんの HP
でチェック!
和盲の取組は随時発
信していきます

第42回近畿盲学校水泳競技大会が開催されました

7月24日(木)、和歌山市の秋葉山公園県民水泳場で近畿盲学校水泳競技大会が開催されました。本校からは高等部生4名が出場。大会に向け、授業や放課後の時間を使って練習に取り組み準備をしてきました。当日は近畿6校が和歌山に集まりました。日頃の練習の成果を存分に発揮し、力いっぱい泳ぎ切る姿に観覧席から多くの拍手が送られました。選手のみなさん、お疲れ様でした!



視覚障害のある人の 水泳競技でよく見る場面…

視覚障がい者について、折返しやゴールなどの壁へぶつかる危険性から、介助者による合図棒などの使用が認められています。

このような視覚障がい者への合図は、「タッピング」と呼ばれ、このための介助者を「タッパー」、合図棒を「タッピングデバイス」と呼ばれています。タッピングについては、安全面からも視覚障がい選手とタッパーとの信頼関係がないとできないものであり、合図するタイミングによっては勝負を左右することがあります。この合図棒も泳法にあった軽量で合図しやすいものが求められており、日本では、個人で製作をしている他、日本パラ水泳連盟と協力して株式会社ヤマハが製作をしています。基本は魚釣り竿に水泳用具のウレタンを加工しているそうです。(参考:JPSF 見とこ、知とこパラ水泳 HP)